令和４年度の研究（または活動）内容

以下の３つの活動を行った

1） 令和４年９月　認知症の人のスマホを使ったまちあるきの実施とYouTubeへの動画公開

「おれんじドア」代表　丹野 智文氏の「ITを用いることで認知症の人の生活がどれだけ変わるか」という声をもとにこのまち歩きは企画した。

９月中旬、生活デザイン学科 谷本裕香子研究室と建築学科 石井敏研究室の学生が、若林区にある「医、食、住と学びの多世代複合施設 - アンダンチ」で、認知症の人を対象に「認知症スマホ教室」と、Googleマップと映像通話を使った「まちあるき」を行った。またその様子を動画で撮影し、ユーチューブで公開した。再生回数は、３月末時点で合計1000回を超えている。

ユーチューブ動画「その優しさは、誰のためなのか Who is this kindness for?」

＞＞https://www.tohtech.ac.jp/topics/information/30566.html

2） 令和４年11月　仙台市主催イベントでの講演

仙台市主催の高齢者向けイベント「元気力アップフェスティバル」@シルバーセンター、において「認知症の人とともに希望を持って暮らし続けられるハッピーな地域づくりをめざして」というテーマで講演を行った。参加者は合計90名であった。アンケート結果からも「興味深くわかりやすい講演でこれから老いていく親や自分のためになった」という回答があった。

3) 令和５年２月　日本建築学会公開研究会（研究所は協力として関与）の企画と実施

以下のような公開研究会を２月 17 日（金）14:30～17:00 に実施した。オンライン開催であったが、参加者は合計 54 名であり、議論への参加者からは「非常に有意義な会であった」とコメントをいただいた。

第 91 回 空間研究小委員会研究会 「ウィズコロナ下で高齢者施設はどう開いていくのか」

コロナ禍における高齢者の外出自粛等の長期化、閉じこもりや交流機会の減少により健康への影響が懸念されます。このため、介護予防や重度化防止を目的として、必要な感染防止対策を確保した上で、ワクチン接種状況等も踏まえ、通いの場をはじめとする介護予防の取組や施設での面会等の再開・推進を図る必要があります。

そこで本研究会では、高齢者施設において、感染症対策を行いながら積極的に施設を開く取り組みを行っている事例を紹介し、これからのウィズコロナの時代に対し、感染症と共存しつつ、どう交流を図っていくかを議論します。またコロナ禍における高齢者施設を対象とした調査結果からコロナ後、建築計画において求められる視点について検討します。これらの議論を通して、「高齢者の感染予防」と「交流の促進」を結びつけた新たな生活様式や施設整備の姿を模索したいと思います。

開催日：2 月 17 日（金）14:30～17:00　司会：谷本　裕香子（東北工業大学）　記録：藤井　健史（金沢工業大学）

1. はじめに：　恒松　良純（東北学院大学）14:30～14:35
2. 趣旨説明：谷本　裕香子（前掲）14:35～14:50
   「クラスターを防止するための空気環境と職員行動」
3. 話題提供：14:50～15:50（30min*2）
   ①「感染症対策とリダンダンシー」
      山口　健太郎（近畿大学）
   ②「ウィズコロナ時代にひらく建築」
      馬場　拓也（社会福祉法人　愛川舜寿会）
      －休憩－　15:50～16:05
4. 質疑・討論：16:05～16:55
   司会：石井　敏（東北工業大学）　副司会：谷本　裕香子（前掲）
   コメンテーター：大野　隆造（東京工業大学）
5. まとめ：16:55～17:00　　佐藤　将之（早稲田大学）

主催：日本建築学会　空間研究小委員会

協力：東北工業大学　認知症の人と環境研究所

第91回 空間研究小委員会研究会　　建築CPD:3単位

ウィズコロナ下で
高齢者施設はどう開いていくのか

2月17日（金）14:30-17:00
会 場：オンライン開催
（Zoom ウェビナー）

以上